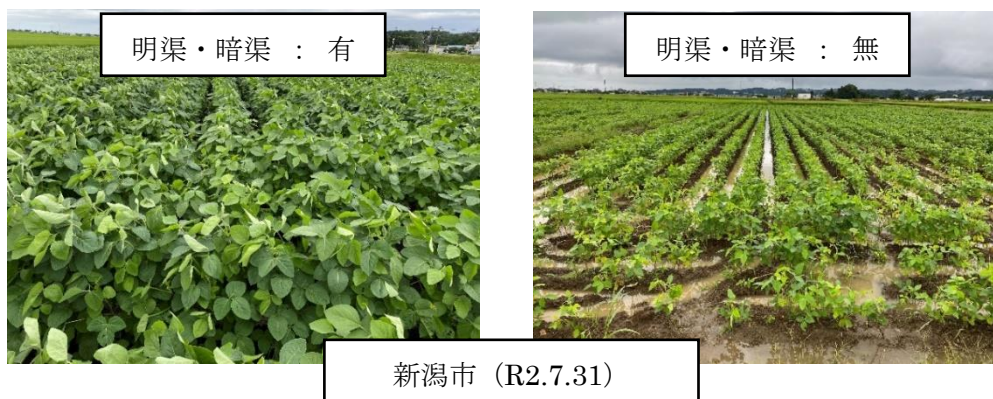


単収 200kg 以上、2 等級以上を目指して 排水対策は最重要！湿害に負けない豆づくり！

ここがポイント！！

- 1 大豆作に適したほ場選定とブロックローテーションの実践
- 2 排水溝（周囲明渠＋補助暗渠）施工による地表及び地下水の早期排除
- 3 排水性向上に有効な播種技術「アップカッターによる耕耘同時畝立て播種」

前年産の大豆は、7月の長雨による湿害が主要因となり、収量及び品質が大きく低下しました。排水対策を徹底することで、苗立率が向上し、その後の生育が促進されます。また、葉が早期にほ場を覆うことで、雑草の発生を抑制し、収量の向上に繋がります。



1 圃場の選定

- (1) 排水の良いほ場を選定
- (2) ほ場を団地化し、周囲からの水の侵入を防止（図1）
- (3) 数年サイクルで団地を動かし（水田に戻し）、長期にわたる連作を回避
※長期の連作は、地力低下や病害虫・雑草の多発による収量・品質の低下を招く。

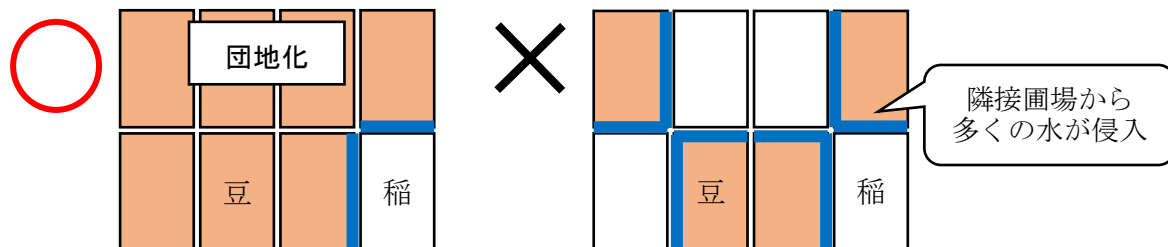


図1 団地化のイメージ

2 排水溝の施工

- (1) 周囲明渠

速やかに地表水を排除できるよう、深さ 30～40cm を確保し、必ず排水口に繋

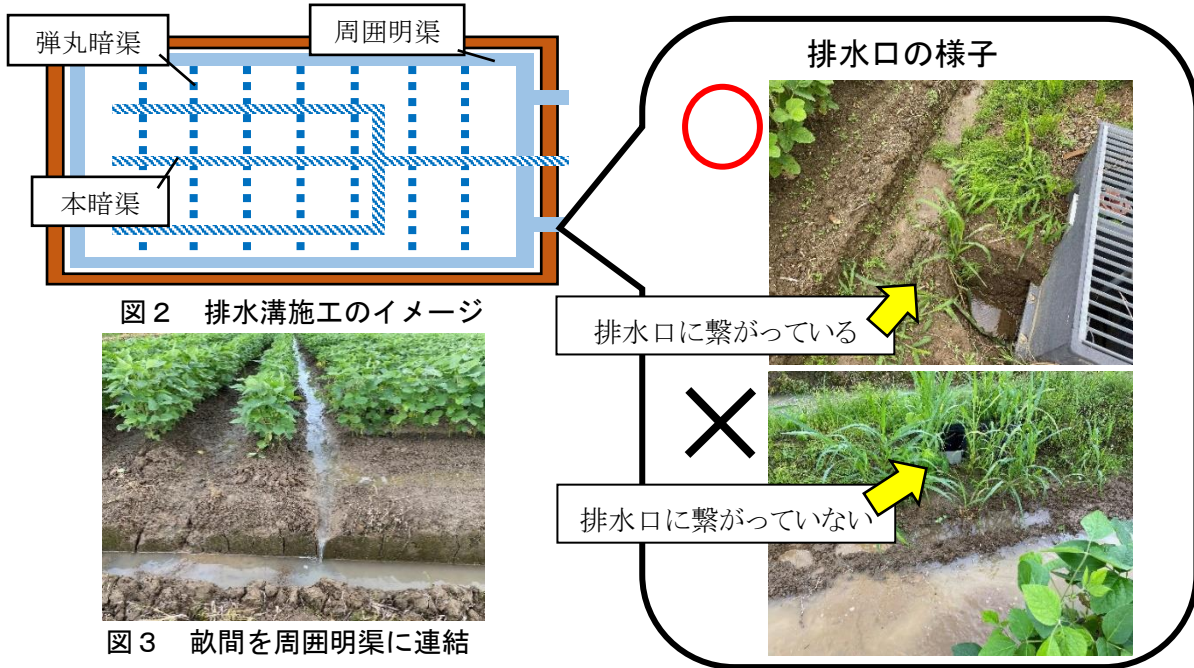
げる。また、播種後は畦間の溝を確実に周囲明渠に繋げる。

(2) 本暗渠

暗渠の落水口や水閘の外観・止水弁の状況、排水状況が良好かどうかを確認する。暗渠管が泥などで詰まっている場合は、洗浄する。

(3) 補助暗渠

排水不良圃場では、本暗渠に直交するよう、①弾丸暗渠の施工（粘土質の圃場に有効）またはサブソイラーによる心土破碎（全ての土壤に適応）を4 m程度の間隔で実施する。深さ30～40cmを確保し、周囲明渠と接続する。



【参考情報】 アップカットロータリによる耕耘同時畝立て播種

(1) 期待される効果

ア 碎土性が高まる上、細かい土は表層に、粗い土塊は下層に分布するため、①排水性向上、②苗立率向上、③除草効果の安定化等に繋がる。

イ 耕耘から播種までの一連の作業を同時に行える※ため、降雨や乾燥などの悪条件の影響を受けることが少なく作業が進めやすい。また、作業時間が短縮する。

ウ 平播きに比べ播種位置が高くなり、土壤の通気性・透水性が高まるため、粘土質や湿潤ほ場でも湿害を受けにくくなり、出芽及び初期生育が良好になる。

(2) 留意点

畦の高さは10cmを目安とする。排水不良ほ場ではやや高めとするが、高すぎると培土時の土量が不足するので注意する。

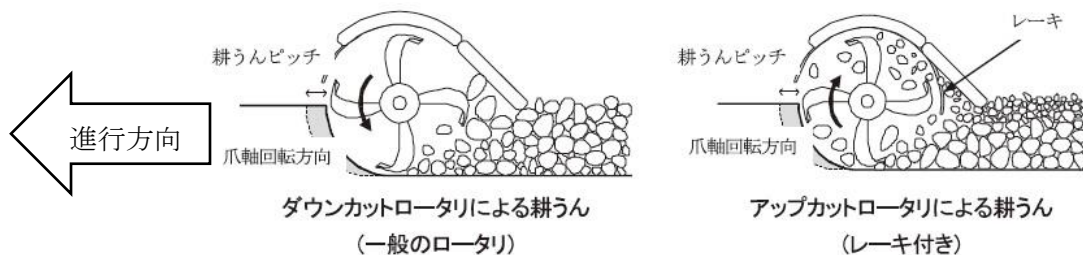


図4 ダウンカット及びアップカットロータリの耕耘の違い

※転作初作ほ場や粘土質の強いほ場は事前に耕起が必要